

令和7年度 港南台地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

1 地域の現状

- (1) 高齢化率が30%を超えているが要介護認定率は低く、元気な高齢者が多い
- (2) 集合住宅では高齢者の単身世帯率が27%と区平均に比べ、非常に高い
- (3) 地域活動者の高齢化に伴い、世代交代が進みつつある。
- (4) 介護事業所数が区内で最も多く、医療機関も多い。連携に協力的な医療機関が多い
- (5) 障がい者支援の施設、学校が多く、障がいのある転入者も増えているが現状として支援者が不足している

2 今後の方向性

- (1) 地域や区、関係機関・事業者等との連携を強化し、福祉保健課題の解決に向けて地域福祉保健計画を推進していきます。
- (2) 地域包括ケアシステムの推進に向けて取り組んでいきます。(認知症サポーター養成講座、地域ケア会議、介護予防・生活支援サービスの充実)
- (3) 互いに支え合う「共助」の取組がさらに厚くなるよう、福祉ネットワークの活動を支援します。
- (4) ボランティア活動の新たな担い手確保と育成に向けた支援を進めます。
- (5) 高齢になっても、いつまでも自分らしく生活を続けられるように支援を進めます。
- (6) 子どもや子育て中の家庭が、暮らしやすい明るい街づくりに努めます。
- (7) 障がい児・者を支えるボランティア育成と、交流を通じた心のバリアフリーに努めます。
- (8) 地域防災対策の必要性が高まっています。要援護者の支援するとともに、福祉避難所としての役割を果たしていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域や関係機関と連携し、第5期計画を今年度中の完成に向けて進めていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	在宅医療と介護の連携の推進した取組として、病院とケアマネジャーとともに研修会の企画・開催を進めます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	住民同士のコミュニティの場となっている移動販売を活用し、住民の孤立解消に向けた取り組みを考案します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	特別支援学校や障がい児者施設等も多い地域です。ふれあいデーを含め、障がい児者と交流できる機会を持ち、また安心して暮らせる地域づくりに取組みます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	港南台福祉ネットワーク事業における、助け合い活動と地域交流カフェ【まろにえカフェ】の開催を支援し、住民が地域と繋がるきっかけを作ります。また、ボランティアの新たな担い手の発掘にも積極的に取り組めます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	チームオレンジの活動としてケアプラザで定期的実施している認知症カフェを地域の自治会館などで開催いたします。認知症の方が住み慣れた地域で交流できる居場所づくりをすすめていきます。

振り返り

地域住民の福祉保健活動を継続的に支援するため、区役所や区社協、地区社協、民生委員等と連携を図り、協力体制を構築してきました。そして、今年度は第5期港南台地区地域福祉保健計画の完成に向けて協議した結果、順調に進み完成間近です。法人内の横浜市南部病院、南部訪問看護ステーションと協働し、地域のケアマネジャーを対象とした研修会を年2回開催しました。また、チームオレンジの取り組みとして地域の自治会館で認知症カフェを2回開催しました。認知症の方や家族が気軽に参加できる居場所づくりを地域の方と一緒に進めています。

2年目となる「まろにえカフェ」の運営は安定してきており、地域と繋がり無しの高齢者等が初めて地域と繋がる場となっています。カフェに参加することでケアプラザを知ってもらい、困り事があった時に相談に来る方もいます。また、カフェでの手伝いを希望される方が増えることでボランティア登録も増えています。今後は担い手を増やすことにも力を入れ、安定した運営が出来るよう支援をしていきます。

今後も地域住民の生活課題ニーズに変化がないか、地域情報を適宜収集し、必要な情報を発信していきます。

移動販売は住民同士が顔を合わせ交流する場として親しまれています。しかし、孤立している住民は多く、チラシ等での周知だけでは充分ではない為、今後はコミュニティの場を利用し、高齢者が興味をもつ「健康」に関するイベントをイオン等の協力を得て開催し、地域に出るきっかけ作りをしていきたいと考えています。

地域で暮らす障害児者家族が声を上げ、当事者同士がつながり、情報交換を通じて日常の悩みや災害時の心配事などを話し合える場を設ける取り組みが動き出したため、当ケアプラザは周知のほか、近隣の学校に声掛けをし、必要な人に声が届くよう、支援してきました。

□ 区からのコメント

地域で行われる事業やイベント等へ積極的に出向いて地域ケアプラザを知っていただく機会を増やすなど、さまざまな場面において地域との関係づくりに注力いただきました。ボランティアの募集も積極的に行っていただき、継続的な活動が地域の担い手につながることを期待します。また、今年度は地域の皆さんとともに「第5期港南ひまわりプラン(港南台地区別計画)」の策定に向けてご尽力いただき、ありがとうございました。

認知症支援については、チームオレンジの取組みとして、出張認知症カフェを開催する等、地域特性に応じたアウトリーチ活動も進んでいます。若年性認知症の相談も増えており、個別支援から事業化への検討が求められます。緊急対応が多い中でも関係機関と連携して対応しており、厳しい体制下ではありますが、継続的な支援をお願いします。成年後見進行管理シートは未活用ですが、今後の課題共有や早期対応に生かしていただければと思います。ケアマネや小規模多機能事業所からの多くの相談に丁寧に対応しており、早期介入が必要なケースへの積極的な介入や虐待対応では区と連携し同行訪問や情報共有を実施しており、高齢者の安全確保につながっています。

また、済生会横浜市南部病院との共催で医療講演会や意見交換会を積極的に実施しており、今後も法人の強みを生かして医療と介護の連携強化に取り組むことが期待されます。地区診断を踏まえた介護予防事業が効果的に実施され、パン講座や美容講座を通じて新たな住民参加や人材発掘につながりました。今後は広い圏域の特性やフレイルリスクを踏まえ、公園を活用したウォーキング等の事業展開が期待されます。地域ケア会議については未開催でしたが、深刻化してから相談につながるケースが多いことも踏まえ、今後は個別対応で見える共通課題を整理し、予防的な介入や啓発につなげるために、地域ケア会議を積極的に活用してほしいと考えます。